

令和7年度 箕面市議会行政視察報告書

(総務常任委員会)

1 日程

令和8年2月2日(月)～令和8年2月3日(火)

2 視察先

(1) 佐賀県武雄市(武雄市役所本庁舎6階)

視察項目	「西九州のハブ都市」戦略とシティプロモーションについて
------	-----------------------------

(2) 福岡県福津市(福津市役所本館3階)

視察項目	観光資源におけるブランド化戦略について
------	---------------------

(3) 視察目的

視察目的	<p>・ 少子高齢化が急速に進展し、自治体間の競争が激化する中、本市は北大阪急行延伸という、都市の未来を左右する大きな転換期を迎えた。この機会を最大限に活かし、まちの活力の維持・向上のため、特に現役世代・子育て世代から「住みたい、住み続けたい」と選ばれるための戦略が不可欠である。よって、「選ばれるまち・箕面」の確固たるブランドをいかに構築すべきか、その具体的な戦略と手法について、今後の取り組みの一助にする。</p> <p>・ 武雄市 新幹線開業という「ハード整備」を、いかにして「都市ブランド向上」と「定住」に結びつけたか、その戦略と公民連携の裏側について調査</p> <p>・ 福津市 「光の道」などの地域資源をブランド化し、人口急増を実現したマーケティング手法と、観光から定住への導線を掘り下げる。</p>
------	---

3 参加者

委員	楠政則委員長、牧野寿美副委員長、高橋竜馬委員、神代繁近委員、桃山悟委員、増田京子委員
----	--

4 佐賀県武雄市…「西九州のハブ都市」戦略とシティプロモーションについて

項目	内容	備考
武雄市について	<ul style="list-style-type: none"> ・人口：46,357人 世帯数：19,410世帯 ・面積 195,40 km² ・平成18年3月 武雄市、山内町、北方町が新設合併し、武雄市が誕生 ・令和4年9月23日西九州新幹線開業 	説明 武雄市議会事務局
①新駅開業を一過性のブームで終わらせないための仕掛けについて	<p>・西九州新幹線開業を契機とした「ハブ都市戦略」では、単なる通過点にさせないためのソフト・ハード両面の施策を展開。ソフト面では、武雄の歴史（鍋島家等）を活かしたモニターツアーの実施や、地域通貨「たけおPay」を活用したスタンプラリーなど、域内周遊を促す仕組みを構築。ハード面では、武雄温泉駅南口を「街のリビング」として再整備し、子供の遊具や学習スペースを設けることで、観光客だけでなく市民も日常的に集う空間を創出した。また、駅内の観光案内所を「武雄旅書店」としてリニューアルし、カフェや書店を併設することで、待ち時間を「滞在」へと変える工夫がなされている。</p>	説明 観光課 お結び課
②民間活力を生かした「稼ぐ公共施設」と周辺のマネジメントについて	<p>・武雄市図書館では、カルチャ・コンビニエンス・クラブ（CCC）を指定管理者に迎え、カフェの併設や年中無休・夜9時までの開館を実現。来館者数はリニューアル前の約4倍となる年間約90万人に達し、周辺経済への波及効果も大きい。このノウハウは駅の観光案内所運営にも展開され、民間視点での「見せ方」の工夫により、武雄焼などの地場製品の売上が数倍に増加。また、駅前広場の使用料を1平米あたり22円と格安に設定し、マルシェ等の民間イベントを誘致。公共空間を積極的に開放することで、官民連携による賑わい創出とエリア価値の向上を図っている。</p>	
③次のフェーズへの課題について	<p>・新幹線開業後、いくつかの課題が顕在化している。</p> <p>①二次交通の脆弱性 宿泊客へのクーポン発行等の対策は講じているが、タクシー台数やバス本数の不足により、駅から先の移動が十分に確保できていない。</p> <p>②対面乗換方式（リレー方式）による通過問題 利用者が目的地へ急ぐため、武雄での途中下車が想定ほど伸びておらず、JRへの魅力的な切符開発の要望や、駅周辺の飲食店充実が急務となっている。実際、駅前の飲食店が撤退する事例もあり、滞在動機の強化が不可欠である。さらに、未確定なフル規格化に向けた市民の機運醸成も、持続的な発展に向けた重要な課題となっている。</p>	

④移住定住促進政策について

・「お結び課」を中心に、婚活と移住を連動させたユニークな政策を展開している。平成22年から続く婚活事業では80組の成婚実績があるが、市外利用者が多い点を踏まえ、令和7年度からは移住定住係と統合し、成婚者を市内に定住させるプロモーションを強化。SNSを活用した縦型ショートドラマの配信（九州初）など、子育て世代をターゲットとした戦略的広報を実施している。また、移住相談窓口では、不動産業者や移住経験者からなる「移住支援員」が、無報酬ながらきめ細かなフォローを行う。空き家バンクとの連携や、新幹線通勤・通学への補助金制度も整備し、流入と定着の両面からアプローチしている。



所感

- ・武雄市の「ハブ都市戦略」は、民間活力を積極的に導入し、駅周辺の魅力向上や交流人口増加に繋がる先進的な取り組みが随所に見られた。
- ・図書館や観光案内所におけるCCCとの連携、そして「お結び課」による移住・婚活連携は、ユニークかつ効果的。
- ・二次交通の課題や新幹線途中下車の促進、民間投資の継続性、そして部署再編による戦略の一貫性確保など、持続的な発展に向けた課題も明確であり、これらの課題解決には、さらなる官民連携と地域全体での戦略的な取り組みが不可欠であると強く感じた。

5 福岡県福津市…観光資源におけるブランド化戦略について

項目	内容	備考
福津市について	<ul style="list-style-type: none"> ・人口：69,524人 世帯数：30,010世帯 ・面積 52.76 km² ・平成17年1月 福間町と津屋崎町が合併し、福津市が誕生 ・福岡市と北九州市の中間に位置し、JR鹿児島本線で福岡市方面から約25分、北九州市方面から約45分 	説明 福津市議会事務局
① 既存資源の価値を再定義したプロセスについて	<ul style="list-style-type: none"> ・「かがみの海」は、市や一般社団法人ひかりのみちDMO 福津（以下、DMO 福津）がPR素材として活用する以前から、地元住民の間では知られていた風景であった。 ・アフターコロナを見据え、市およびDMO 福津が観光資源として位置づけ、現在はDMO 福津を中心に積極的なプロモーションを展開している。 	説明 観光振興課 ひかりのみち DMO 福津
② 観光地化と市民生活の調和について	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点において、福津市では太宰府市のような「オーバーツーリズム」による深刻な問題は発生していない。一方で、初詣時期の宮地嶽神社周辺における交通渋滞や、海岸沿いに設置されている公衆便所の利用マナーについては課題が見られる。 ・観光客の市内回遊性向上において、宮地嶽神社の高い集客力を十分に生かし切れているとは言えず、今後の展開が期待される。 	
③観光消費額向上について	<ul style="list-style-type: none"> ・観光消費額の向上にあたっては、宿泊施設が不足していることが課題であると考えられている。日帰り型観光が中心となっている現状では消費額の拡大に限界がある。 ・市内3か所の観光案内所等において、観光アンケートのQRコードを設置し、観光客データの収集・分析を行っている。 	
④地域連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・DMO 福津は地域DMOとして、福岡県観光連盟と常に連携し、福岡県を訪れる観光客が福津市にも足を運ぶよう誘客に取り組んでいる。 ・また、周辺自治体とも連携し、観光案内等に福津市のいわゆるインスタ映えする風景を掲載するなど、地域全体として観光の魅力向上を図っている。 	



所感

・福津市では、「かがみの海」に代表されるように、地域に既に存在していた資源の価値を再定義し、DMO 福津が中心となって観光プロジェクトをマネジメントしている点が印象的であった。民間と行政が一体となり、地域コーディネート、ブランドオペレーション、マーケティングを柱に、市のブランド形成と地域経済の活性化を図る体制は、本市においても大いに参考にすべきであると感じた。

・「かがみの海」、「宮地嶽神社」という集客資源を有しながらも、市内回遊性の向上や観光消費額の拡大には課題が残っており、特に宿泊機能の不足が日帰り型観光からの脱却を難しくしている点は、本市の今後の観光政策を検討するうえでも重要な論点である。

・DMO 福津が掲げる「住民の心豊かな暮らしを観光に生かし、観光で得たものを再び生活に還元する」というコンセプトは、観光と市民生活の調和を重視する姿勢を明確に示しており、持続可能な観光地域づくりの観点からも非常に示唆に富む内容であると感じた。

以 上